

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	長吉地域包括支援センター					
提出日	2024	年	6	月	30	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）			
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等			
	☐ その他（	）			
活動テーマ	高齢・障がい等の制度の垣根を越えた支援ネットワークの形成				
地域ケア会議から 見えてきた課題	【複合課題を抱えた世帯への支援の必要性】 ・精神障がい疑われる本人・家族への支援介入の難しさ、支援が長期化				
対象	地域支援関係者、高齢者・障がいのある方を支援する専門職、当事者				
地域特性	長吉圏域は高齢者人口は区内5圏域で最多である。高齢化率は区平均よりやや高い。圏域内では連合ごとに高齢化率に大きな差異がある。地域には木造家屋が密集している地域と、公営住宅の地域があり、世帯構成も地域により特徴がある。近年は公営住宅の建て替えが進んでおり住民同士の関係が希薄化している地域もある。				
活動目標	障がい当事者の理解と、各専門職・専門機関の役割の理解を通して、日常業務の中でも相互に相談・連携できる関係作り				
活動内容 (具体的取組み)	令和5年度は「引きこもり・社会とのかかわりに苦しむ人たちへの支援について」とし、児童福祉を含む若年支援者や、障がい支援者との考え方の違いなどを共有する目的で地域支援者交流会を3回実施した。 ①5月17日（第24回） 「障がい児童・者支援、引きこもり支援に関わる支援者の立場からの講和を意見交換会」 ＜参加28名＞ ②9月20日（第25回） 「ヤングケアラー支援について」 ・行政、NPO法人による事業説明と意見交換会 ＜参加21名＞ ③1月16日 「つながる場」総合的な相談支援体制の充実事業について ＜参加29名＞				
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	今年度は、障害がい児やヤングケアラーなど若年者への支援についての事業・活動内容と各関係者との意見交換の機会が持てたと同時に、圏域や周辺地域に様々な支援機関があることを知れ、相互につながり、今後様々な世帯を見守り・かかわり持つ際に、新たな相談や連携先の拡がりにも繋がった。				
今後の課題	本人と同居（または別居）している家族等に何らかの障がい（疑い含む）があり、家族も含めた世帯全体への対応が必要である。しかしながら、精神障がい疑われる家族（子など）へに介入が難しかったり、支援が長期化する傾向にある。 世帯員の特性により「高齢」「障がい」など異なる制度の下での対応となるため、それぞれの支援関係者が課題や支援方針を共有し、スムーズな連携ができる仕組み作り、高齢・障がいを問わず、機関や職種を超えて、複合的課題のある世帯への支援・対応の連携体制構築に向けた関係者間の交流、意見交換・検討の機会を継続して持つことが必要である。 参加者それぞれの役割・機能の理解に繋がったが、今後ケース発見時の具体的な連携については令和6年度の交流会の中で引き続き意見交換を重ねながら検討していく。 また、介入・支援拒否等により、必要な医療や制度につながらない対象者の支援の担い手がいらない（見つからない）課題がある。				
※以下は、区運営協議会事務局にて記入					
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月17日（水）				
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性	☒ 継続性	☒ 浸透性	☒ 専門性	☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・複合課題を抱えた世帯への支援の難しさは、それぞれの制度における支援機関の範囲が限られているところであるが、各関係機関との相互に相談・連携できる関係づくりの取り組みが評価できる。 ・ヤングケアラーや障がい児童に目を向けている。 ・支援者交流会は次へと繋がる（広がる）大変良い取り組みであると思います。先駆的なモデルとしてその効果など、引き続き評価報告をお願いします。 ・若年者への支援についての事業・活動内容と各関係者との意見交換の機会が持てたこと。 ・住民同士の関係の希薄化が発生している地域もあり、高齢・障がい等家族との支援介入の難しさを感じます。 ・高齢者の事だけでなく、障がい者、ヤングケアラー等についても支援機関とも関係を築かれているようで素晴らしいと思いました。 ・高齢者人口最多の地域で、様々な課題がある中、日常相談連携できる関係作りに取り組んでいる。				